



議会だより



これからも南幌生活を満喫します！！

第3回 定例会

9月7日～13日

平成28年度各会計・病院事業 会計決算を認定

9月定例会は9月7日に開会し、町長一般行政報告に続き2名の議員が4項目について一般質問を行いました。その後、健全化判断比率等の報告、平成28年度の各会計決算認定を決算特別委員会に付託（8日から12日までの休会中に審議。審議内容は19頁）、補正予算など6件を審議し、いずれも原案のとおり可決しました。

本会議は13日に再開し、条例制定、人事案件、決算認定など12件を審議し、いずれも原案のとおり可決・採択し閉会しました。

平成28年度決算認定

○一般会計・5特別会計
○病院事業会計

一般会計ほか5特別会計及び病院事業会計は、決算審査特別委員会を設置して審議した結果、本会議において各会計とも認定されました。

平成29年度補正予算

○一般会計

補正予算(第2号)

主に歳入では、普通交付税確定に伴う追加、平成28年度繰越金確定に伴う追加。歳出では、障がい者福祉費国庫・道負担金過年度返還金の追加、機場施設管理修繕料の追加によるものです。

○一般会計

補正予算(第3号)

主に歳入では、歳出補正予算各事業に係る道補助金、町債の追加。歳出では、南空知4町知名度向上推進事業、南幌温泉大規模改修工事費の追加によるものです。

○国民健康保険特別会計

補正予算(第1号)

主に歳入では、国保広域化準備に係る国庫補助金、平成28年度療養給付費交付金の追加、基金繰入金の減額、平成28年度繰越金確定に伴う追加。歳出では、国保総合システム備品の購入、基金積立金の追加によるものです。

○介護保険特別会計

補正予算(第1号)

主に歳入では、基金繰入金、平成28年度繰越金確定に伴う追加。歳出では、国庫支出金等清算金の追加によるものです。

条例制定等

○南幌町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例

(改正)
番号法の運用に当たり、独自事務の情報連携を行うため。

質疑

議員

個人情報観の観点から、今後どのような対応を取るのか。

総務課長 マニュアルに沿って個人情報遵守、職員・住民にも周知を行っていく。道によるマイナンバーに関する研修に参加しているが、内部研修についても機会を確保して実施していきたい。

○南幌町議会委員会条例

(改正)
常任委員会の所管事項を改めるため。

人事案件

○教育長の任命

おがさわら 小笠原 正和さん(北町)

その他

○南幌町健全化判断比率等の報告

平成28年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率について報告がありました。

○教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告

平成28年度の教育委員会の活動状況に関する点検・評価について報告がありました。

○町出資法人の経営状況報告

(株)南幌振興公社の経営状況について報告がありました。

○北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

北海道上町村総合事務組合規約の変更

○北海道市町村職員退職手当組合規約の変更

意見書

意見書

次の意見書を採択し、各省庁等へ送付しました。

○林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

※意見書とは、地方公共団体の公益に関することに関して、議会の意思を意見としてまとめた文書のことです。

第2回臨時会

10月6日

第2回臨時会は、衆議院議員選挙執行による補正予算1件、契約関係1件が提案され、原案のとおり可決しました。

平成29年度補正予算

○一般会計

補正予算(第4号)

主に歳入では、衆議院議員選挙費委託金の追加。歳出では、10月22日執行の衆議院議員選挙経費の追加によるものです。

契約関係

○工事請負契約

契約目的
平成29年度南幌温泉本館棟改修工事
契約金額
1億9,224万円
契約先
玉川・吉田特定建設工事共同企業体

一般質問

問 今後の食育の進め方は

答 食の大切さを伝える

佐藤 妙子 議員



つて給食は大切な栄養源と考へられますが、今後の対策は、また、この事業を通して地元食材のことや生産者への感謝の気持ちを伝えたいという本町の思いから、食育をどのように進めるのか。

教育長

給食の残食についてはいろいろなものをバランスよく食べることの大切さを伝え、好き嫌いをなくすことで米飯も含めた残食を減らすよう取り組みます。

また家庭においても同様に取り組んでいただくため、保護者にも伝えていくことが重要と考えます。

食育の進め方については、南幌町食育推進計画で位置づけられている学校給食での地元産利用という目標に沿い、主食分費用の補助や給食だより、学校での給食指導を通じて地元食材

佐藤議員 本町は米を始めとする農業の町であることから、南幌でつくられる食材を知ってもらうこと、地産地消支援を進めること、給食費の保護者負担軽減を図ることを目的に学校給食の主食分を全額町で負担しています。

平成29年度給食センター概要による米飯残食率調査では、小中学校合わせ平成26年度には15・65%、平成27年度には16・40%、平成28年度には18・79%と増加の傾向にあります。

成長期の子どもたちにと

を活用していることを伝え、各家庭において、本町でつくられている食材のことや、生産している農家の方々への感謝の気持ちなど話題にしていただくことで児童生徒が食の大切さについての理解が深まるよう取り組みます。

その他の質問

問 本町の移住体験住宅事業にふるさと納税の利用は。今後の展開は。

町長 子育て世代住宅建築費助成事業が寄附金に充当されています。当面は現在の住宅を活用します。

熊木 恵子 議員



熊木議員

全国各地で子どもたちの貧困が深刻化し大きな社会問題になっています。

平成26年1月に子どもの

問 子どもの貧困実態把握を

答 切れ目のない支援を継続

貧困対策推進法が施行され、問題意識を持つて実態調査する自治体が増えていきます。保護者の就労支援や経済支援など多岐にわたる対策が急務となっています。

本町では、子どもの貧困対策推進法に基づき、実態把握調査や実施の検討をどのように行っているのか。

乳幼児健診や小中学校での実態について、関係機関と共同して取り組む必要があると考えますが、町長の見解は。

町長

本町としては第6期総合計画に挙げている、保育所利用者負担額の引き下げや乳幼児・児童生徒等の医療費助成、高校生通学費補助事業などの町独自の事業は、子育て支援のみならず低所得世帯支援を考慮した事業を展開しています。

町として具体的な実態把握調査は実施していませんが、生活保護世帯やひとり

親家庭の児童扶養手当の申請など、母子保健事業で家庭環境を含めた経済的状況を把握しており、各関係機関との連携のもとで支援を行っていきます。

今後は道の分析結果や他市町村の動向を注視し、子どもの成長段階に応じた切れ目のない支援を継続していきます。

その他の質問

問 役場庁舎内禁煙として屋外に設置される予定の喫煙所設置の時期は。公共施設の建物内での全面禁煙の考えは。

町長 11月をめどに屋外に喫煙所を設置します。

現在禁煙措置を講じていない施設については順次取り組んでいきます。

決算審査特別委員会

平成28年度各会計決算を認定

第3回定例会において、一般会計ほか5特別会計及び病院事業会計の28年度決算をいずれも決算審査特別委員会（石川委員長ほか委員8名）に付託されました。決算審査特別委員会は、9月8日から3日間の日程で審議し、賛成全員で「原案のとおり認定すべきもの」と決定し、報告しました。委員会での質疑を要約して掲載します。

総務費

委員 知名度向上対策について、LINEスタンプの影響は。

まちづくり課 運用開始時は好評だったが、現在は減っている現状。海外の方にも購入されています。



LINEスタンプ

委員 南空知4町知名度向上推進について、チ・カ・ホにおける移住相談会での感触は。

まちづくり課 長沼町が担当して2月に開催し、来場者はアンケート回答者で147名。場所柄通過する方が多く足を止めてもらう工夫が必要と感じました。

委員 南空知4町知名度向上推進について 南空知4町サイクル観光事業の成果は。
まちづくり課 平成28年度はマップとWEBの作成、サイクルスタンド・標識の設置を行っており、サイクルリングをする人は4町でふえてきています。
委員 企業誘致推進について、何社リストアップし訪問したのか。

まちづくり課 道外700件、道内300件の1,000件抽出し、ダイレクトメールでのアンケート回答は251社ありました。道外11社、道内11社の訪問活動を行っています。

委員 協働まちづくり推進事業について、補助金交付が3団体だが、相談件数は。
まちづくり課 13件の相談を通じて新規が1件ありました。

委員 公用車管理経費について、小型・中型バスの今後の更新予定は。公用車へのドライブレコーダー設置の考えは。
総務課 導入後年数が経過し、修繕費用がふえており、今後民間バスの借上げや購入を検討していきます。ドライブレコーダーは1台に設置していますが、他の公用車は費用対効果を考え検討していきます。

委員 街路灯等補助金交付について、美園地区から街路灯設置要望はあるのか。
まちづくり課 美園地区の街路灯は、道住宅供給公社が設置し、町が管理してい

ます。今のところ要望はありません。

民生費

委員 介護ロボット等導入支援事業について、内容と導入後の現場の声は。

保健福祉課 平成28年度、みどり苑に介護ベッドを4台導入しましたが、利用者の状態を早期に把握でき、見守り頻度も減り、介護従事者の負担軽減や介護時間の短縮になっています。

衛生費

委員 成人保健について、がん検診受診率が昨年より10%以上上がっている。担当課の評価は。今後の考えは。
保健福祉課 自己負担の軽減などを進めてきたことで受診者が増えました。今後受診券の交付、受診機関の拡充等を図っていきます。

農林水産業費

委員 担い手育成対策について、若手女性農業者サークルの実施内容、参加者の年齢は。

産業振興課 平成28年度3回実施し、料理教室、工場視察、大豆を使ったアクセサリーづくりを行いました。30代の方が参加しています。



料理教室

土木費

委員 橋梁長寿命化修繕について、13カ所の点検内容と修繕の予定は。

都市整備課 判定Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区分のうちいずれもⅡ（予防保全段階）であり、直ちに改修が必要な橋はありません。

委員 きらら街道について、江別市は全面舗装を実施したが、改修等について、今後の考えは。

都市整備課 拡幅や歩道の設置予定はありません。ひび割れ等の修繕を年次計画で実施していく予定です。

教育費

委員 給食運営について、米は南幌産を使用しているが、地元産野菜の使用率は何%くらいか。

生涯学習課 地元産野菜はきやべつ・玉ねぎ・ネギ・ピーマンの4種類約16%使用しています。

病院事業会計

委員 新しい院長が来て医師2名体制となったが、患者・看護師との関係は。

町立病院 現状では患者の受入態勢はうまくいっていると考えています。看護師との関係も良好と考えています。

賛否の公表

議員の活動に対して町民の評価が的確になされるよう情報の提供に努めるため、議案などに対する各議員の態度を公表します。

【平成29年第3回議会定例会】

平成29年度各会計補正予算、平成28年度各会計決算認定、条例案、人事案件など18議案について、議長を除く10名全ての議員が賛成しました。

【平成29年第2回議会臨時会】

平成29年度一般会計補正予算、財産の取得について、議長を除く10名全ての議員が賛成しました。

※議長は採決に加わっていません。

議会報告懇談会を開催します！

町議会では、日頃の議会活動を報告し、町民の皆さんと懇談の機会を設け、今後の議会活動に反映していくため、議会報告懇談会を開催します。

・平成29年11月18日（土）ビューロー 午後6時から開催



道外政務調査報告

議会では、道外先進地事例を研究するため、7月5日〜7日、秋田県大潟村、秋田県井川町及び長野県下條村において調査を行いましたので概要を報告します。

秋田県大潟村

人口減少を食い止める対策について

◎大潟村の概要

大潟村は、国の八郎潟干拓事業で1964年に誕生。まだ、50余年と新しい村。大潟村の行政面積は17005畝で、農家には入植時15畝の農地が配分され、その大規模農地を活用して、日本でも有数の稲作地帯として発展。現在は、国の減反政策により転作を求められ、小麦や大豆、メロン、南瓜等の畑作物も生産されている。

村の人口は、2015年の国勢調査で、3110人。1980年国勢調査をピークに人口は減少傾向にあるが、その幅は小さい。

◎大潟村の施策

大潟村の特色は、「30代女性がふえている」ことである。30代女性増加率では、20・5%増で県内1位となっている。

30代の女性がふえている要因は、大潟村の農業に魅力があり、東京など村外で就職した若者が、村に戻って農業を継ぐケースが多く、夫婦で戻ってくる例が多いと聞く。

村の人口が減少していくことは残念であるが、対策をしっかりと講ずると、人口の減少を緩やかに抑えることができるということである。種の施策を打ち出している。

大潟村は、農業に関連する企業が多く、日中の人口が夜より2割多く、大半が村外からの通勤者である。

その方々をターゲットに移住定住の促進に力を入れており、宅地分譲での住宅建設補助金最大100万円。家族の人数に応じて商品券を最大100万円分支給するなど、村内への移住を応援している。

子育て支援では、保育園、幼稚園にかかる費用の助成。

近年、晩婚化が進んでいることから、婚活にも力を入れている。過去には東京から11名の女性を招き、婚活を行い3組のカップルが誕生したという実績もあるが、今年は来られる方も減少している。

所感

大潟村は、農業が基幹産業の村で本州府県に比べると大規模経営の地帯で、現在は平均18畝の経営面積を保有している。農業粗収入は約3000万円。生産費が低いので収益性が高い地域。農地の価格も他町村に比べ高いこともあり、他町村からの購入はない。

大潟村に住んでいる方は、「コンパクトな村なので、暮らしやすい」と言っている。農業後継者が育ち、地域で

は連携がしっかりと取れていて、若者が帰ってきやすい環境になっている。

また、大潟村の農家の大半は、若いうちには子育てに専念できる環境で、冬期間はスキーなどのウィンタースポーツのインストラクターになり、他県のスキー場に勤めている。

そのような土地柄から農業者の維持のため、後継者の育成をしていくことで、人口減少を最小限にとどめている。総合的に裕福な村で農業においても「ゆとり」を感じる。

農業に魅力を感じさせることができなければ、村の人口はさらに減少したのではと思われる。

(西股 裕司)

秋田県井川町

学力向上対策アクティブラーニングについて

全国学力・学習状況調査において全国トップレベルの結果を出している秋田県井川町教育委員会と井川小

学校を視察した。

アクティブラーニング(手段)とは「課題の発見・解決に向けた主体的、対話的で深い学び」とのこと。

全国学力調査の結果「知識に関する問題」よりも「活用に関する問題」の得点が全国平均を大きく上回る傾向にあり、「活用力」にすぐれていることで注目された。その要因として、

①子どもたちが落ち着いて学習している。

授業中は私語が少なく熱心に学習している割合が高い。

②学習体制がきめ細かい。放課後を利用した補充的学習を行う・少人数学習も早くから行われている。

③探求型の授業を行っている。学習課題をグループで話し合ったり、学級全体で意見交換をする。「めあて、学習課題」の提示や「振り返り」の活動を取り入れている。

④家庭学習の習慣が定着している。

家で復習している子どもの割合は9割を超える。

一方学習塾に通う割合は、全国平均を下回っている。

⑤家庭・地域・学校の連携が強い。

⑥授業研究が活発に行われている。

校内や県教育委員会による授業研究会などが充実しており、指導における教師間の共通理解が浸透している。

井川町では平成30年に現在の井川中学校の校舎で小中一貫校がスタートする予定である。これによって小・中学校がより一層連携を深め、9年間の計画的・継続的な学びの可能性を大きく広げていく予定である。



井川小学校視察

所感

秋田スタイルから学ぶこと

先生方が共同研究を行うチャンスが多いことと学校単位、市町村単位でも共通している「探求型授業」が実現できているのは、先生方のスキルアップができる機会が多く設けられているからである。また、秋田県式家庭学習ノートの勉強習慣と想像力が身につくことに重点を置き、1日1ページそれぞれ好きな勉強をすれば良いというものである。このような取り組みを北海道全体が意識して、より多くの先生方が研修に出ている環境を整える工夫が必要と考える。

子どもたちに向けては、教育委員会が提唱している学びの十か条

- ・ 早寝早起き朝ごはんに家庭学習
- ・ 学校の話題ではずむ一家団らん
- ・ 話して書いて伝え合う国語
- ・ 学んだことは生活で学校ですぐ活用（一部抜粋）

どこでも提唱していることのようにだが実践すること

が難しく、子どもたちの学力向上はもとより、活用力のついた子どもたちを社会に送り出す努力が必要と感じた。

(志賀浦 学)

長野県下條村

子育て支援政策について

下條村は長野県の南端に位置し、人口約3800人で、山間部に34の集落が散在しており、出生率を向上させたことで全国的に知られている。

全国の合計特殊出生率が1・34人に対し平成15～18年の平均で2・04人と上回る。

子育て支援においても、住宅政策など多岐にわたる支援政策を先駆けて展開した状況を視察した。

下條村の改革は前村長の職員の意識改革から始まり、村民との協働による生活環境基盤整備事業へとつながっていく。

また、下水道事業の取り組みにおいては、国が進め

る公共下水道・農業集落排水（43億～45億と試算）から合併処理浄化槽事業（約9億）を選択した。

子育て支援への取り組み

【学校教育改革】

- ① 故郷を良く知る教育の推進
- ② 生徒会議会等の充実
- ③ クラブ活動の充実
- ④ 国際化時代に対応、海外研修

研修

【住宅施策と少子化対策】

- ① 若者定住促進住宅の建設
10年間で10棟124戸
- ② 高校生までの医療費無料化
- ③ 保育料の無料化
- ④ 「つごいの広場」開設
- ⑤ 子育て支援基金の創設
- ⑥ 義務教育の給食費補助
- ⑦ 定住促進住宅、新增築工事補助事業
- ⑧ 定住促進住宅・用地取得・宅地造成補助事業
- ⑨ 若者定住促進住宅（2LDK）家賃の引き下げ
- ⑩ 入学祝い金
- ⑪ 出産祝い金

さまざまな取り組みで、平成22年度には、1295世帯4163人と人口増加に寄与してきた。

しかし、近隣の自治体も同じような施策を打ち出してきていることで人口減少に転じてきている。

現村長になってからも、子育て支援施策は続けられており、平成29年には

- ① 子育て支援センター建設
- ② 出産祝い金の増額 第2子5～8万円 第3子以上30～50万円
- ③ 高等学校等通学補助 通学支援として一律3万円支給
- ④ 保育所に保育園設備を設置
- ⑤ 地域おこし協力隊を採用 移住定住・婚活・6次産業の推進
- ⑥ 空き家改修補助金 改修費の4分の1 上限50万円を補助

所感

このようにさまざまな事業を継続している下條村の姿勢に感銘を受けた。

南幌町としても現在取り入れている子育て支援事業の拡充も視野に入れて、住民との協働事業や現状の事業の費用対効果を確認し、意識改革に向けていくべきと感じた。

(志賀浦 学)

全員協議会

8月4日

- みどり野きた住まいるヴィレッジの進捗状況について
- 南幌工業団地の賃貸等について

○公共施設アスベスト調査結果について

○南幌温泉（本館棟）の改修について

8月29日

- 教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
- 広域連携の取り組みについて

- ・空知魅力発信プロジェクト事業
- ・南空知4町広域連携事業

委員会活動

（7月～9月までの開催分）

総務常任委員会

9月21日

- 町立南幌病院について
- 議会報告懇談会資料づくりについて

産業経済常任委員会

9月1日

- 農業委員会農作物作況調査へ同行

議会運営委員会

8月31日

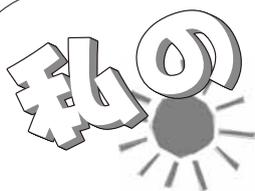
- 定例会の運営について

まち活性化特別委員会

8月4日

- 議会改革について

平成28年度政務活動費執行状況			議員一人あたり交付決定額		
			96,000円		
本間 秀正	支出済額	4,500円	佐藤 妙子	支出済額	4,500円
川幡 宗宏	支出済額	4,500円	菅原 文子	支出済額	4,500円
原田 弘克	支出済額	4,500円	石川 康弘	支出済額	4,500円
志賀浦 学	支出済額	4,500円	熊木 恵子	支出済額	4,500円
内田 恵子	支出済額	4,500円	側瀬 敏彦	支出済額	4,500円
西股 裕司	支出済額	4,500円	合計	49,500円	執行率 4.7%



まち・ひと・しごと

議会だより表紙の方を紹介します。

小林 三千代さん（東町在住）



小林さんは、網走管内津別町で生まれ、高校卒業まで過ごし、その後、北見市で勤務、11年前に転勤で札幌へ。今年4月から南幌町の住人となり、御主人・お姑さん・弟・相棒犬ピースと仲良く暮らしています。御主人と出会ってなければ、ずっと南幌町を知らずにいたかもしれませんと笑う三千代さんに南幌町の印象を伺いました。

「遊歩道がいつもきれいに整備されて感謝です。ピースも元気ハツラツ。たまにお姑さんと一緒に他の温泉に行きますが、やっぱり南幌温泉がいいね～となります。図書館も常に新書が置いてあり嬉しく思います。驚いたことは、風が強い、ゴミの分別が難解、大人・子ども関係なく知らない人から挨拶をされる。都会ではないことなのでごく感動しました。今では自分から挨拶ができるようになり、これからも南幌生活を満喫していきたい。」と話す小林さんは、現在南幌養護学校で臨時職員としてスクールバスの添乗をしながら、求職活動中です。

議会広報委員：内田 恵子

編集後記

豊穡の秋を終え、黄金色に輝いていた穂波もやがて雪化粧と変わります。南幌の豊かな実りに自然とあふれ出す感謝の気持ちはこの町に住む特権でしょうか？

突然鳴り響いたJアラート、異常気象による集中豪雨と、穏やかな毎日にも危機感を感じたのではないのでしょうか。

さて、議会広報特別委員会では毎回読者にわかりやすく、読み応えのある紙面づくりとともにインパクトある内容をお知らせできることを目標に編集を進めています。

平成28年度の会計決算では、慎重に審議して内容も要約して掲載しましたのでぜひお読みいただければ幸いです。

それでは朝晩の寒暖差が大きくなる時期ではありませんが、皆さん健康管理に十分注意をされお過ごしください。

S・T